

## 魅力ある企業へ前向きに取り組む 令和7年 一般社団法人さいたま市建設業協会 新春賀詞交歓会



日野副市長の発声で乾杯



斎藤会長

清水市長

帆足市議会議長

令和7年の新春賀詞交歓会が1月16日午後5時からザ・マークグランドホテルで開催された。さいたま市の清水市長、日野副市長、さいたま市議会の帆足議長、西山副議長、まちづくり委員会の稲川委員長、新井副委員長、SIAさいたま建築家懇話会の役員らの来賓をはじめ、報道関係者などが出席したほか、当協会会員など約130人が参加し、新年の挨拶を交わした。

首藤副会長の開会の言葉に引き続き、挨拶に立った斎藤会長は、「大企業の初任給が上がっている。中小企業の採用が難しい時代に、社員が辞めない環境とし、魅力ある企業となる必要がある。協会にいろいろなアイデアを出してもらい、やれることはやり尽くしたい。厳しい時代だが、前を向き、明るい気持ちで業界を盛り上げていただきたい」と呼び掛けた。

来賓の祝辞で、市議会を代表し帆足議長が、「今年は巳年。ヘビは脱皮し再生を繰り返す。市と地元建設業はスクラムを組み『ダッピニューイヤー』でいきたい」と挨拶した。

続いて、日野副市長の発声で乾杯し開宴。しばし和やかに歓談が続いた後、駆け付けた清水市長が祝辞を述べた。「住みやすい、住みたくなるまちづくり」への協力に感謝を述べた後、「ヘビが脱皮するように、さいたま市は変化し、『しんか、し続けていく』とし、『時代に対応し、変わっていく』進化、『さいたま市らしいまちをつくり、深めていく』深化、『さいたま市の本当の価値をつかっていく』真価の3つの『しんか、』を挙げ、『皆さんと一緒に『しんか、』していきたい」と語った。

その後、懇親を再開し、松永副会長の締めで閉会となった。

## 令和6年度第3・4回理事会開く さいたま市のまちづくりの動きで講演



第4回理事会とさいたま市の各講演

令和6年度第3回目の理事会が6年10月11日午前10時30分から、ロイヤルパインズホテル浦和で開かれた。「さいたま市のまちづくりの動き」についてさいたま市都市局が講演。令和6年度の市長要望などを報告した。会の冒頭、斎藤会長は、「さいたま市は夢と希望にあふれている。まちづくりについて市の話聞き、協会としても盛り上げて、より良いさいたま市となるよう協力したい」と挨拶した。

講演は2つのテーマで開催。都心整備部の都心整備課と浦和駅周辺まちづくり事務所は、「2050年の未来の浦和駅周辺をみんなで考えよう!」と題して講演。都心整備部東日本交流拠点整備課は、「『東日本の玄関口大宮』が変わる!～大宮駅グランドセントラルステーション化構想～」と題し、大宮駅地域戦略ビジョンなどを解説した。

令和6年度第4回の理事会が12月12日午後3時30分から、ホテルプリランテ武蔵野で開かれた。さいたま市都市戦略本部都市経営戦略部新庁舎等整備担当が「市役所と現庁舎地利活用の方針について」を講演。

理事会では、社会貢献委員会の審議を反映した大規模災害応急対策マニュアルの改訂について説明し、承認された。また、令和6年度第1回研修会の開催について報告した。テーマは、さいたま市の最近の話題について。令和7年1月28日午後2時から開催し、電子契約、総合評価方式工事検査、書式の統一化及び工事関係書類のスリム化、工事写真の電子媒体による提出について説明してもらう。その他、令和7年新春賀詞交歓会の日程、事務局の年末年始休暇期間を伝えた。

## 土木部門・意見交換会開く 働き方改革に向けて



立石次長 松永副会長 富田委員長

当協会土木部門とさいたま市との意見交換会が、令和6年12月18日午後2時

から浦和コミュニティセンター集会室で開催された。協会側は土木委員会の富田委員長など委員会から16名、市側は建設局北部建設事務所の立石一弘次長、南部建設事務所の齋藤志浩次長など事務所、技術管理課から15名が出席した。

冒頭、松永担当副会長は、「忌憚のない意見を交換したい」と挨拶。富田委員長は、「10回目の意見交換会となり、協会員の期待も感じている。これからも継続して開催していきたい」と挨拶。北部建設事務所の立石次長は、「発注者と受注者は車の両輪。発展性のある意見交換会としたい」と挨拶した。

意見交換は、大きく4つのテーマを設定。各テーマで、数項目の要望や質問などを土木委員会の委員が行い、市側が現状や方針などを応えた。意見交換終了後、猪股前委員長がまとめの言葉を述べ、荒木副委員長の挨拶で閉会した。

4つのテーマの意見交換の概要は次のとおり。

### ■施工管理の効率化

協会側は、『工事関係書類の統一化』『工事関係書類の簡素化』『ASPの導入拡大への課題』『遠隔臨場拡大への課題』について、市側の現状と方向性を問い、改善を要請した。市側は、「国と連携した書類の統一化を粛々と進めたい。来年度から様式が変わるものもある」「関東地整のスリム化ガイドに基づき、工事写真の電子化を今年度から導入したが、まだ施工者側からの提案はない」「来年度に向けて、manifestoなどは提出不要になる」「受注者からも改善を提案してもらいたい」「他の市のシステムとASPの連携が難し

い」「電子メールで良いという声も多い」「会計検査との兼ね合いもある」などとした。

### ■円滑な現場運営

協会側は、『条件明示(工程に影響する協議の進捗状況、近隣情報など)』『計段階の工程表の添付』『工事の一時中止』で市側の現状と方向性を問い、三者会議の開催など改善を要請。市側は、「分かっている限りは記載するよう心掛ける」「工事工程表の開示は国や県が試行しており、市も導入を検討中」などとした。

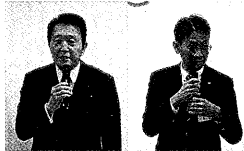
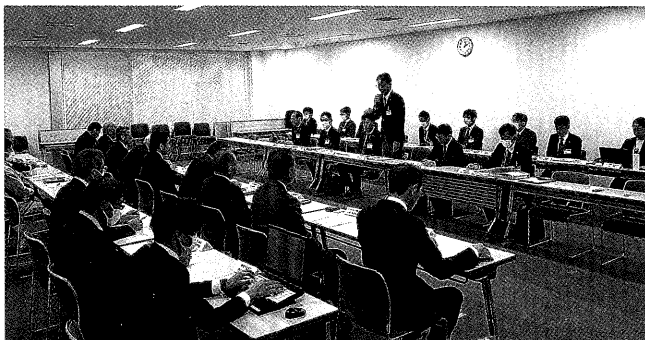
### ■設計変更・当初積算

協会側は、『一日未満で完了する作業の積算』『基準書の適用条件が合わない場合の当初積算(見積歩掛の採用、施工業者への見積徴収)』『基準書の適用条件が合わなかった場合の変更(駅前や幹線道路で歩道整備など)』について、市側の現状と方向性を問い、改善を要請した。市側は、一日未満で完了する作業の積算フローを提示。「土木工事標準積算基準書は公開しており、ダウンロードも可能」「適用条件が合わなかった場合は、ケースバイケースで対応している」「施工形態動向調査の結果を反映しているが、適合しない部分があれば対応したい」などとした。

### ■その他

協会側は、『設計変更3割ルール』『CCUS』『積算参考資料の公表』『市職員に対するアンケート』について、市側の現状と方向性を問い、改善を要請した。

## 建築・電気・設備合同意見交換会開く 積算で平均値採用へ



首藤副会長 島村建築部次長

建築、電気、設備の3委員会合同による「令和6年度さいたま市とさいたま市建設業協会との意見交換会」が7年1月22日午

後2時から浦和コミュニティセンターで開催された。

市側からは、建設局の島村建築部次長、浅野営繕

課長、太田保全管理課長、齊藤設備課長、竹越技術管理課参事兼課長、財政局の鈴木契約課参事兼課長ら16名が参加。協会側からは、首藤副会長、松永副会長、松永建築委員長、岡村電気委員長、大原設備委員長ら、オブザーバー(現場担当者)を含め16名が参加した。

冒頭、首藤副会長は、「働き方改革への取組は必須だが、いろいろな問題も発生している。改革をスムーズに進めるため、忌憚のない意見交換をしたい」と挨拶。島村建築部次長は、「時間外労働時間の上限規制などを持続可能な建設業形成へのチャンスと捉えてもらいたい。市も積極的な支援を行う。営繕工事の円滑な実施と地元建設業の健全な発展に向け、意見交換会を実りあるものとしたい」と挨拶した。

今回の意見交換会では、第1部で3委員会の委員長・副委員長が代表して各業種の現状と課題を説明するとともに、行政への要望などを述べ、市側は現状の施策や今後の展望などを述べた。第2部では建築分科会と電気・設備分科会に分かれ、それぞれの現場担当者を交え、協会からの具体的要請などを行った。

第1部では、建築委員会の松永委員長が、働き方改革に向けて、交代制での施工承認、短期間工事での週休2日制対策、月単位での週休2日制カウントの変更などを要望。市側は、交代制ではなく閉所型で週休2日を進めたい、週休2日のための適正な工期確保に努めているなどと応えた。田中副委員長は、建設DXの推進スケジュールを問うとともに、オーバースペックな提出物を要求しないこと、元データでの提出(PDFなどへの加工をしない)徹底などを求めた。市側は、建設DX推進に積極的姿勢を示すとともに、提出書類は要領に基づくが協議で変更も可能などとした。山崎副委員長は居抜き工事での関係者の認識共有、設備工事の不調により建築と抱き合わせになった工事について書類、検査等の簡素化・効率化もしくは経費の見直し、設計業務の精度向上、積算での物価版等の中間値採用などを求めた。これに対して市側は、一括工事でも分離発注の設計図書に基づく、本年4月から物価版等の平均値採用を予定しているなどと応えた。

電気委員会の岡村委員長は工事条件の改善に向け、改修工事での定例会議設置、適切な建物管理、現場調査の期間と経費の確保、入札時積算数量表

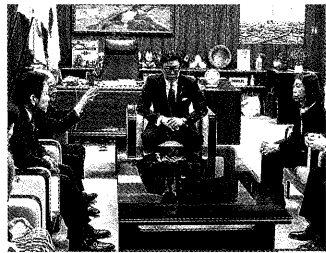
活用方式の導入、統一基準での検査などを要請。これに対して市側は、入札時積算数量表活用方式は令和7年4月から試行導入の予定、統一の検査基準に沿って検査しているなどと応えた。

設備委員会の大原委員長は契約及び工事発注に関して、電子契約の推進、設計事務所への工事監理発注、主任技術者配置要件の緩和、不調・不落時の即日公告、優秀工事業者の期間延長(Bランク工事が少なく実績がつかれない)、一抜け入札の拡大などを求めた。これに対して市側は、電子入札(委託)導入後に電子契約の具体化を目指したい、主任技術者配置要件の緩和は順次実施しており、今後、ICT活用工事での兼務なども検討中、発注標準の変更でBランク工事は増えている、一抜け入札は試行中で拡大も前向きに考えているなどとした。

第1部の意見交換終了後、技術管理課から不調不落が増加傾向にあるなどの現状説明があった。

第1部終了後、分科会ごとの第2部を開始。協会側のオブザーバーを交えて、工事着手前ミーティングの必要性、建築・電気・設備同時入札などに関し意見交換した。第2部終了後、松永副会長が謝辞を述べて意見交換会を閉会した。

## さいたま市長らと新年懇談



帆足議長・西山副議長と



清水市長と



新屋、高橋、日野副市長と

当協会役員らによる、令和7年のさいたま市役所新年挨拶回りが、1月21日午後3時から行われた。

当日は斎藤会長をはじめ、副会長、ブロック長、計8名の役員が参加。まず、議会棟で帆足議長、西山副議長と懇談。次に日野副市長、高橋副市長、新屋副市長と懇談した後、市長室で清水市長と懇談した。その後、財政局、建設局などを訪問した。清水市長とは、市の施策などについて話合った。

## 「令和6年度第1回研修会」 市の入契制度、検査などを学ぶ



首藤副会長

「さいたま市の最近の話題について」と題し、市の工事に関する発注から契約までの制度、工事検査の進め方、提出書類の簡素化などを説明する「令和6年度第1回研修会」が令和7年1月28日午後2時から建産連研修センター大ホールで開催された。協会会員企業、さいたま市などから約150名が参加した。

首藤副会長は、「皆さんの興味ある内容の講演だ。有意義な研修会としたい」と開会の挨拶をした。

研修会では、さいたま市財政局契約管理部、建設局技術管理課の担当職員が講演。質疑応答で理解を深め、松永副会長の挨拶の後、閉会した。

講演の概要は次のとおり。

### ■財政局契約管理部契約課

#### ▽電子契約について

さいたま市は電子契約の導入を「検討中」としている。埼玉県は、令和5年4月から立会人型電子契約を導入しており、この内容を説明した。

#### ▽総合評価方式について

令和6年度は45件(研修会時点)の総合評価方式を実施。平成30年度からは「特別簡易型」を導入。工事成績評定等(提案はなし)と価格から評価する方式で、受発注者双方の事務負担減を図っている。令和4年4月からは「担い手育成・確保につながる評価項目」として、「週休2日確保・建設機械保有・CCUS登録状況」を加えた。

### ■財政局契約管理部工事検査課

#### ▽工事検査について

工事成績評定の公平性確保のため、検査員間で判定基準の考え方について随時協議調整、検査員間で外部研修などの情報を共有、担当検査員と工事検査課長が対面で評定内容に矛盾点などがないかを確認、などを行っている。

## ■建設局技術管理課

### ▽書式の統一化及び工事関係書類のスリム化

関東地方整備局をベースとし、必要最小限の記載内容統一を行う統一化様式の運用を令和7年4月1日から開始。作成・提出不要書類を明確化した工事関係書類のスリム化ガイドの適用を4月から開始する。

### ▽工事写真の電子媒体による提出について

令和6年4月1日以降、契約する全ての案件で電子媒体による提出が可能となっているが、実績が伴っていない。推進のために、問題があった場合の相談窓口の紹介などを行った。

### ▽物価スライドについて

全体、インフレ、単品の制度内容を説明した。

### ▽「さいたま市営繕工事における入札時積算数量書活用方式」の概要

入札公告と特記仕様書に対象工事であることを明示。2月上旬からホームページに試行要領を掲載する。

## 協会日誌（令和6年9月～令和7年2月）

令和6年 10月3日-第2回正副会長・ブロック長会議(ロイヤルパインズホテル浦和) 4日-トラスコ中山プラネット埼玉見学会(幸手市) 7日-第3回土木委員会(建産連研修センター) 8日-第1回建築委員会(建産連研修センター) 11日-第3回理事会(ロイヤルパインズホテル浦和) 21日-第1回設備委員会(埼玉県空調衛生設備協会) 28日-第2回電気委員会(建産連研修センター) 11月11日-第4回土木委員会(建産連研修センター) 12日-第2回社会貢献委員会(建産連会館) 18日-第2回建築委員会(建産連研修センター) 26日-令和6年度さいたま市優秀建設工事業者表彰式(ときわ会館) 12月2日-第1回建築・電気・設備合同委員会(建産連研修センター) 2日-第5回土木委員会(建産連研修センター) 3日-第3回正副会長・ブロック長会議(ロイヤルパインズホテル浦和) 12日-第4回理事会(プリランテ武蔵野) 16日-第2回環境問題委員会(建産連会館) 18日-令和6年度さいたま市との意見交換会(土木)(浦和コミュニティセンター)

令和7年 1月16日-令和7年新春賀詞交歓会(THE MARK GLAND HOTEL) 21日-さいたま市長への新年挨拶(さいたま市役所) 22日-令和6年度さいたま市との意見交換会(建築・電気・設備)(浦和コミュニティセンター) 28日-第1回研修会(建産連研修センター) 2月21日-第6回土木委員会(建産連研修センター) 26日-「建協だより」第67号編集会議(建産連会館会議室)

## 各委員会(令和6年9月～令和7年2月)

### 社会貢献委員会(阿久津委員長)



令和6年度第2回社会貢献委員会が、6年11月12日午前10時30分から建産連会館特別会議室で開催され、大規模災害応急対策マニュアル関係綴りの改訂を協議した。

事務局がマニュアルの改訂内容を説明。前回と比較して、文言の修正、災害対策本部のメンバー変更、災害対策本部の設置図、情報パトロールの緊急連絡先一覧、パトロールマップなどを確認した。「電気版」についても同様に修正を説明し、確認された。

今後、再修正を行い、正副会長・ブロック長会議を経て12月の理事会に諮る。令和7年1月末～2月初旬に製本される見通し。また、マニュアルに基づく机上訓練を次年度に行うことを方針化した。

### 環境問題委員会(岩浪委員長)

#### トラスコ中山プラネット埼玉を見学



環境問題委員会による「トラスコ中山プラネット埼玉」(幸手市)への見学会が令和6年10月4日午後2時から開催された。岩浪委員長、首藤担当副会長ら12名の会員が参加した。

同所は、機械工具の大型流通センター。延べ42万㎡を超える施設で、免震構造、太陽光発電を導入。225名が働いている。災害への対応、省人化、カーボン

ニュートラルに取り組み、働きやすい環境を整えている。最先端の技術を駆使し実践している施設を見学することにより、中小建設業者もBCPを含めた環境配慮姿勢を学ぶために見学会を企画した。

見学会では、小島朋子副センター長の挨拶、会社概要・センター概要説明の後、施設(庫内)を見学。質疑応答の後に解散した。



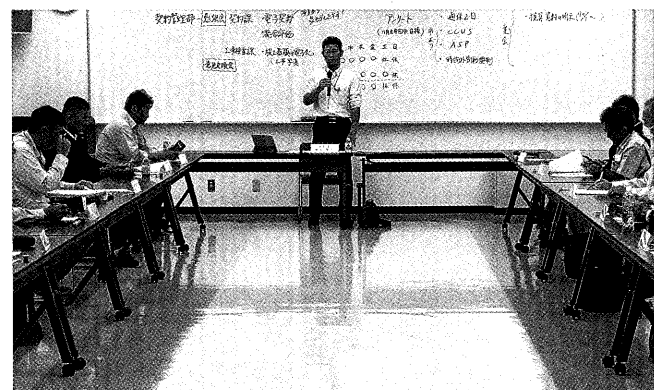
令和6年度第2回委員会が、6年12月16日午前11時から建産連会館特別会議室で開催された。さいたま市の年末年始における不法投棄監視パトロールへの協力を確認。トラスコ中山プラネット埼玉見学会の成果を確認し、来年度の研修会を協議した。

さいたま市から要請のあった、年末年始における不法投棄監視パトロールへの協力について事務局が説明し、協力を承認した。実施期間は、令和6年12月20日から26日と令和7年1月9日から15日まで。市が配布した「不法投棄防止啓発用ステッカー」を車両の目立つ部分に表示し、通常業務での移動等に合わせて不法投棄の監視を行う内容。不法投棄物を発見した場合は、市に通報する。

来年度の活動としては、大成建設グループ次世代技術研究所への見学会を第1候補に、さいたま市サーマルエネルギーセンターなどへの見学を検討する。

そのほか、ごみ拾いを楽しむためのSNS「Pirika」への登録促進を承認した。

## 土木委員会(富田委員長)



令和6年度第3回委員会が、6年10月7日午前10時30分から建産連研修センター200会議室で開催された。市の契約部門の説明会開催に向けて合意形成を図るとともに、市との意見交換会(土木部門)に先立つ市のアンケートに関して、その内容を協議した。

土木委員会として、市側に説明会の開催を要請することを決定。内容については、電子契約について協会側からの事例提示などを含めて、今後、協議する。

市のアンケートは、意見交換会(土木部門)開催に向け、業界の現状把握、課題抽出などのために実施するもの。市側のアンケート(案)を示し、付加すべき項目などについて委員の意見を聞いた。

事務局からは、「入札公告時における積算参考資料の明示要領(試行)」の説明があった。

第4回土木委員会は、6年11月11日午前10時から建産連研修センター200会議室で開催した。市との意見交換会(土木部門)に向けた議題を抽出するため、その内容について協議した。第5回委員会は、6年12月2日午後1時30分から建産連研修センター201会議室で開催。市との意見交換会(土木部門)での提案議題について、これまでの協議を踏まえて最終的なまとめを行った。第6回委員会は、令和7年2月21日午前10時30分から建産連研修センター200会議室で開催。市との意見交換会(土木部門)での結果を報告。その成果と今後の方針を確認した。

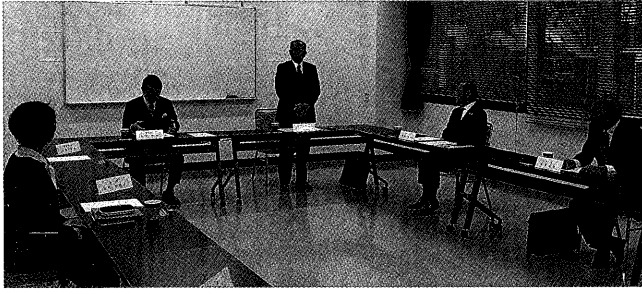
## 建築・電気・設備合同委員会



令和6年度第1回建設・電気・設備合同委員会が、6年12月2日午前10時30分から建産連研修センター103会議室で開催され、7年1月に開催予定のさいたま市との3委員会合同意見交換会に向け、議案を調整した。3委員会の正副委員長らが出席した。

事務局が提案議題案を示し、会の開催時間に対応した議題数の調整と内容の修正、提案者を決定した。

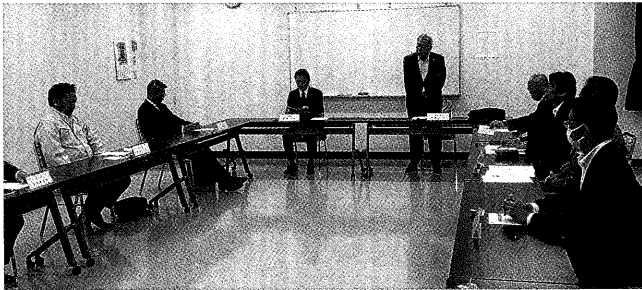
## 建築委員会(松永委員長)



令和6年度第1回委員会が、6年10月8日午前10時30分から建産連研修センター101会議室で開催され、合同意見交換会での提案議題を協議した。

第2回委員会は、6年11月18日午前10時30分から建産連研修センター103会議室で開催された。前回の委員会での意見を踏まえて、提案議題のたたき台を示し、各項目に対して意見を募った。今回の意見を反映して、たたき台を修正する。

## 電気委員会(岡村委員長)



令和6年度第2回委員会が、6年10月28日午後2時から建産連研修センター103会議室で開催され、合同意見交換会に向けて意見を交わした。今回の意見を踏まえ、分離発注の維持など、従来からの継続要望に不調不落対策として市側でも取り組むべき課題を加えて委員会としての提案議題をまとめることとした。

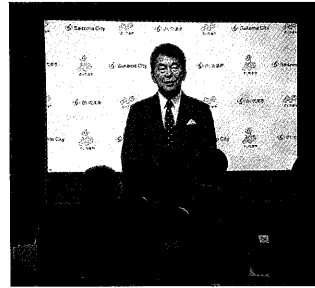
## 設備委員会(大原委員長)



令和6年度第1回委員会が、6年10月21日午後2時から県空調衛生設備協会会議室で開催され、合同意見交換会に向けて意見を交わした。昨年度の議題について修正・継続するもの、新規の議題について、各委員から意見聴取し検討を行った。

## 第18回さいたま市優秀建設工事業者表彰

### 会員施工の10工事(JV含む)に



清水市長が挨拶

さいたま市は令和6年11月26日午後2時30分から、ときわ会館5階大ホールで「令和6年度(第19回)さいたま市優秀建設工事業者表彰式」を開催した。

主催者を代表して清水市長(ビデオメッセージ)は、「建設業は、社会資本整備の担い手であり、災害時には市民の安全安心の守り手として重要な役割を担っていただいている。その役割を将来に渡って果たし続けられるよう、持続可能な建設業を実現する働き方改革が急務だと理解している。地域の安全安心を守り、豊かな生活を支える魅力ある建設業へと飛躍すべく、担い手の確保に向けて、市としても働き方改革や生産性の向上などに積極的に取り組むので、より一層のご理解、ご協力をお願いする」と挨拶した。

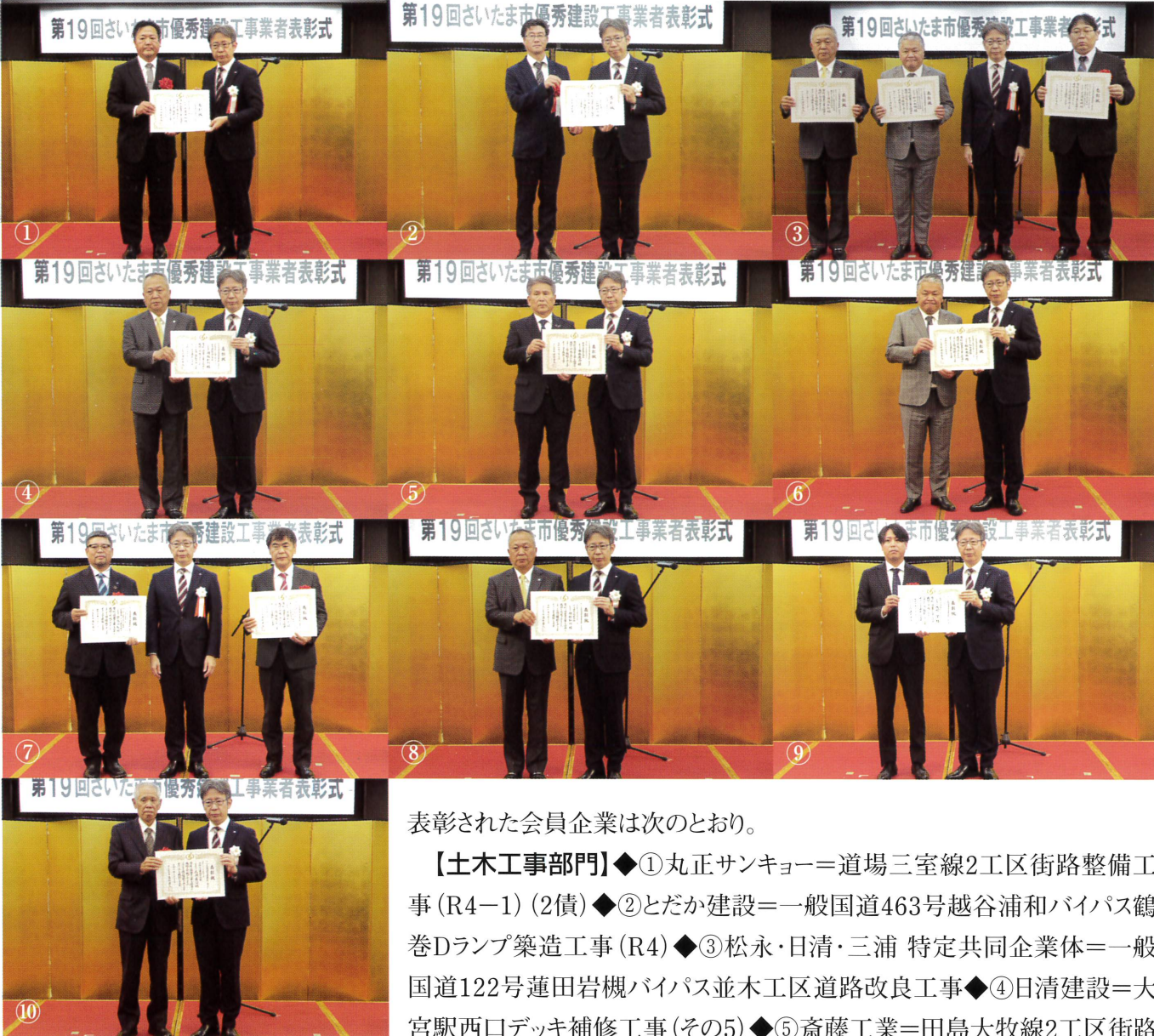
表彰対象はさいたま市発注で令和5年度に完成した請負金額500万円以上の771件の建設工事の中から、市内に本店を有するもののうち、工事成績評定点が優れた11工事を施工した延べ11者(JV含む、一部重複)が選定された。このうち、10工事の施工13社(一部重複)が会員企業(JV構成員含む)。また、技術者部門では53名が表彰された。内訳は、土木工事部門が28名、建築工事部門が23名、水道工事部門が2名で、多くが会員企業の所属だった。

新屋副市長の審査結果講評、表彰状授与の後、受賞者を代表してハイシマ・八生特定共同企業体が大戸小学校リフレッシュ改修をプレゼンテーションした。小島水道事業管理者の挨拶の後、閉式となった。



受賞企業全員で

# 第19回さいたま市優秀建設工事業者表彰(会員企業)



表彰された会員企業は次のとおり。

- 【土木工事部門】◆①丸正サンキョー＝道場三室線2工区街路整備工事(R4-1)(2債)◆②とどか建設＝一般国道463号越谷浦和バイパス鶴巻Dランプ築造工事(R4)◆③松永・日清・三浦 特定共同企業体＝一般国道122号蓮田岩槻バイパス並木工区道路改良工事◆④日清建設＝大宮駅西口デッキ補修工事(その5)◆⑤斎藤工業＝田島大牧線2工区街路整備工事(R4)◆⑥松永建設＝箕輪橋外2橋補修工事(その2)(補)

- 【建築工事部門】◆⑦ハイシマ・八生特定共同企業体＝さいたま市立大戸小学校(2-1、-2・3-1、-2・14棟)リフレッシュ改修(建築)工事◆⑧日清建設＝北消防署中規模修繕(建築)工事◆⑨大塚電設＝さいたま市立三橋小学校第3校舎・給食室棟改築(電気設備)工事

- 【水道工事部門】◆⑩タカセ工業＝老第3577号布設替工事

## 企業倫理憲章

私たち会員企業は、豊かさが実感できる、全国13番目の「政令指定都市 さいたま市」の創造的な都市基盤整備の担い手であることを誇りとし、積極的に企業倫理や社会的責任を果たしていくことを誓います。

### 私たち会員企業は

- 1. 諸法令を遵守し、公正な企業活動と経営に努めます
- 1. 美しい自然環境との共生、循環型環境社会の構築に努めます
- 1. 経営者の倫理観として、常に企業活動の説明責任に努めます
- 1. 優れた技術者集団として、社会的責任を果たすとともに、技術の研鑽に努めます
- 1. 地域社会の一員として、積極的に社会貢献活動に努めます

発行所 (一社)さいたま市建設業協会  
編集委員会

〒336-0031 さいたま市南区鹿手袋4-1-7(建産連会館 5F)  
E-mail: 本部 hombu@saitamashi-kenkyo.jp  
事務局 jimukyoku@saitamashi-kenkyo.jp

TEL: 048(863)3203  
FAX: 048(863)1794



協会HP▶